

「1コマの授業の流れ」を意識した1人1台端末の活用シーン（例）

StuDX Style掲載の事例から考えられる学校での1人1台端末を活用した1コマの授業の流れ

導入

展開

終末

めあて

3-①



授業の導入でひな形学習カード配信

教師がプレゼンテーションソフトで作成した学習カードのひな型を配信

メールを受信したらプレゼンテーションソフトを開き、めあてや学習内容を確認

個人

1-⑩



デジタル付箋を使ってみよう

デジタル付箋に思い付く言葉をたくさん書き出す

付箋を並び替えて仲間分け

グループごとに名前を付けて情報を整理

ペア・グループ

3-⑥



共同編集で学習のまとめを作成

教師が「学習のまとめ」用のプレゼンテーションのひな型を配信

隣の児童生徒とペアになって共同編集

完成後はグループをつくり他の考えを見合う

まとめ

3-⑧



いろいろな意見を出し合って互いの考えを深めたり広めたりしよう

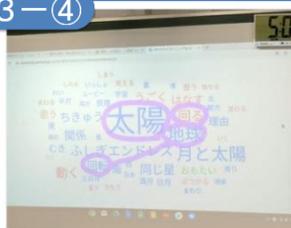
デジタルホワイトボードソフトに自分の考えを入力

クラス全員と効率的に考えを共有

他の児童生徒の考えに触れる中で、自らの考えを深めたり広げたりする

振り返り

3-④



振り返り活動のDX

アンケート機能を活用し振り返りの記述を提出

全員の回答が瞬時に共有

教師による即時評価

ICT端末について、授業における活用シーンに着目して整理すると、特定の教科や単元の内容に関わらず、汎用的かつ日常的に活用することができます。児童生徒が日常的にICT端末を活用することで、情報活用能力の育成にもつながります。

あくまで一例であり、単元や題材のまとまりの中で、各教科等の特質を踏まえて1コマを位置づけることも重要です。